

学校教育評価表（小・中学校）

学校名 大津市立 日吉中 学校

評価の基準（3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった）

項 目	評 価 の 観 点		自己評価 (3・2・1・0)	学校関係者評価 (3・2・1・0)	関連するSDGsの 目標(参考)
主体的・対話的で深い学 び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	3	3	
	2	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む)	3		
	3	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施	2		
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	3	2	   
	5	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	2		
	6	保護者等への道徳科の授業公開	2		
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	3	3	 
	8	体力づくりを推進する運動実践	3		
	9	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2		
指導改善 (組織的・計画的)	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	2	2	 
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	3		
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2		
育ちと学びを支える 連 携					
① 家庭・地域との 連携・協働	13	保護者の子育てに対する積極的な支援	2	3	   
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	3		
	15	防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり	3		
② 保幼小中の 連 携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	3	3	
	17	校種間の授業公開や合同研修会	3		
	18	保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	2		
組織的体制の 充 実					
① 生徒指導体制の 充 実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	2	3	   
	20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	3		
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	3		
② 特別支援教育の 充 実	22	個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2	3	   
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	3		
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	3		

※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと

学校満足度	25	児童生徒の学校満足度	3	3
-------	----	------------	---	---

※	児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.36
※	保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.16

* 各校の学校評価書から上記の1～25の観点にかかる自己評価および学校関係者評価結果を取り出し、本表に移記ください。

* 評価の項目と関連があると考えられるSDGsの目標を参考として表示しています。

令和4年度 大津市立日吉中学校学校評価書

項目	観点	自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
		小項目 評価	中項目 評価	現況	中項目 評価	意見、提言等	
1	主体的・対話 的で 深い学び	1	A	○「自分たちが互いに支え合おうとする学級・学年集団になるよう努力している。」という問いに、全体の91％が努力していると肯定的に回答している。集団を高めていこうとする想いの強さを感じられる。特に3年生においてその結果が向上しており、97％の生徒が肯定的に答えた。これにより3年生になるとより一層、集団づくりに向けた積極的な働きかけが行われていることがわかる。	A	○生徒一人一人が授業に向かう姿勢が意欲的である。また、学級としてもまとまっていこうという雰囲気を感じられる。 ○生徒や先生の大半が、前向きに考え、よりよくしていこうと努力している点は、学校としての雰囲気の高さを感じる。このことを9つのグループで連携してよりよい実績へとつなげてほしい。 ○互いに理解し合う姿勢が伺える、先生どうし、生徒と先生、いい関係が構築されていると思います。	・支持的風土を育てる集団づくりについては、自己存在感を高める・自己決定の場をつくる・共感的人間関係を育成するという生徒指導の3機能を生かした学習集団の基盤づくりに努める。 ・授業研究については、今後さらに子どもたちの生きる力の育成に向けた、教職員の指導力向上を目指す。現在の生徒の学習意欲をさらに高めていくことができるよう授業改善に努め、継続して学びに向かう力の育成を目指す。
		2	A	○「1人1台端末」が実現し、教職員を対象としたICT研修の成果がみられる。各教科だけでなく特別活動等の取り組みにおいても積極的に活用できた。その結果、「授業の中でグループ活動やタブレット端末を通して、互いに思いや考えを伝え合う努力をしている。」という問いに、90％の生徒が肯定的に回答している		○授業参観を通して見受けられた事によりクラス全体でまとまっている事は自己評価通りであった。タブレットを使った授業に対しても、生徒たちの取り組みは、全体でまとまっていることは評価できます。先生達のICTの取組に対して、差が出ない事を心掛けてほしい。 ○支持的風土を育てる学級・学年集団作りの実践が、生徒・保護者双方から支持されていることは、方向性が定着してきていると感じます。 ○互いに理解し合う姿勢が伺える。生徒同士、生徒と先生、いい関係が構築されていると思います。	
		3	B	○教職員の評価から、学級・学年集団づくりの実践について、継続して取り組んでいる。また、ICTの活用についても、昨年度同様96％の教職員が活用していると肯定的に回答している。 ○●今年度は校内研究の取り組みを「学校組織力の向上を目指したチームマネジメント開発」とし、育ち合いの実践として授業づくり・人づくり・集団づくりについて9つのグループを設定しそれぞれについて研究を深めた。2年目の取り組みとなり、リーダーの教員を中心に本校の課題解決にむけて見通しをもって取り組んでいる。しかしながら今年度についてはグループ間での交流を取り入れることがあまりできなかった。学校全体の取り組みとして発展させていく必要がある。		●保護者の評価の変化がなかったとありますが、授業の公開をしてもほとんどの保護者は授業内容よりも子どもの様子しか見えていないと思います。今は無理かもしれませんが、保護者も参加するなどしないと変化はあまりないと思いました。	
2	道徳教育の充 実	4	A	○いじめを許さない態度や人権意識が高められるような道徳的実践力を育てる活動に取り組むことができた。道徳の授業の中で、いじめを防止する題材を扱い、生徒の意識の向上につなげることができた。生徒の評価もA評価の割合が昨年度よりも上がっていた。 ○各学年で、道徳担当を中心に資料作成をすることができた。 ○適宜タブレットを活用し、授業を進めることができた。 ○道徳の授業外においても人権週間の設定など、日々の教育活動の中で道徳教育を行うことができた。	B	○人権の取組をはじめ概ね順調に継続されているように思う。自己評価に照らして今後の取組に期待。 ○●いじめが起こっているかどうかは、参観だけでは判断できませんが、概ね無いような雰囲気は感じ取れています。保護者への道徳教育については、判断できません。	・道徳の授業は、原則的には教科書を使った授業展開が求められている。副教材や資料として使用した物(作成したもの)をストック・シェアできるようにしていきたい。 ・学校、学年、学級のの実態に応じて、適切な題材を適切な時期に実施できるように努力する。特に大津市の中学校として、いじめに関する内容を道徳の授業で必ず扱う必要がある。来年度もいじめ防止啓発月間に、どの学年もいじめについて考える道徳の時間を設けていきたい。 ・道徳の授業の時間数確保を確実に、道徳科にふさわしい内容を実施できるようにする。 ・公開授業の内容が保護者にも伝わりやすいよう、教材名とテーマ程度の内容を受付や教室前、学年フロアなどで掲示、配布するなどの工夫をする。 ・授業後の生徒の感想を、学校から発行する通信(学級通信、学年通信、学校だよりなど)を活用して保護者にも伝わる形で発信する。
		5	B	●年度当初に全学年共通でポートフォリオとしてキラリノートを配布し、生徒一人ひとりの書く活動の記録として残すことで、生徒自身がいつでもふり返ることができるだけでなく、評価の材料にもできるようにした。しかし、文章での表現が苦手な生徒もあり、日々の授業での個々の生徒の様子などを、こまめに記録を残していく必要がある。今後、評価の仕方についてはさらに研修を進める必要がある。		●道徳の公開授業に参加しましたが、上記と同様子どもの様子を見るだけで、授業の内容はすべてわかりませんでした。自分の子どもも考えもプリントに記入しているのを見ないとわからないので、授業内容と子どものプリントを合わせて家庭で話せるようにしてもらえたらいいなと思いました。	
		6	B	●1月には道徳学校公開日を設定したが、学校評価アンケートでは道徳の授業に対する評価が保護者と生徒の間でAの評価に大きな差があるため、授業公開以外にも、道徳の取り組みが保護者に伝わる方法を模索する必要がある。 ●道徳担当の交流の時間を確保するのが難しいため、学年を問わずに共有できるような資料を考え、ストックする必要がある。		●道徳の意識が生徒は非常に高い評価であるが、保護者には伝わっていないようである。難しいかわかりませんが、保護者側の目線が見える化授業も取り入れられてはどうか。	
3	人権教育の充 実	7	B	○●生徒は、「互いに支え合う」、「いじめを許さない悩み事を相談できる」、「先生は理解しようとしている」、「先生は相談に乗ってくれる」、「自他を尊重する」という問いに、昨年度同様に約9割が肯定的に答えている。生徒の意識は高い水準の状態であると思われるが、学年にばらつきがありより一層人権感覚・意識の向上に努めなければならない。 ○日吉学区教育総合推進会議の活動は今年度も新型コロナウイルスの影響があったものの、学区内の保幼小中高が集まる機会はほぼ例年並みに復活することができた。	A	○評価集計表をみても、生徒達も高い評価を認めている。 ○学校にとどまらず、学区に広げた取組は今後益々大事になると思う。是非とも復活、発展を。 ○人権教育につきましては、判断できる材料がありません。しかし、上手くすすめられているように、先生達の活動で、大丈夫だと思います。	・生徒も教師も意識をさらに高めるために、全学年を通してさらに系統的に進められるようなカリキュラム作りが必要である。 ・自己肯定感を向上させるために行っている活動について、各学級での取り組みを教員間で情報交換を密に行う必要がある。 ・教職員の人権感覚を高めるために、日頃から研修の機会を持ったり、OJT研修を進める必要がある。また、掲示物の工夫を行い生徒の人権に対する意識を日常的なものにする。 ・コロナに関わってこれまで行っていた学区内での学習がストップしていたが、状況を見ながら徐々に復活・発展させていく必要がある。 ・教職員の人権感覚をさらに研ぎ澄ますためにも、今後も日吉学推を中心に活発な研修、啓発、活動を行っていくべきである。
		8	A	○●保護者は、「支えあう集団」、「道徳心の向上」、「地域人材の活用」、「いじめや暴力の対応」、「学校の組織的対応」、「子どもの理解」、「福祉、医療との連携」、「人権意識の向上」の項目で9割程度が肯定的に答えている。今年度の学校の落ち着いた状態を反映した結果だと思われる。しかし、「楽しい学校生活」の項目では85％が肯定的に答えているが昨年度より少しポイントがダウンした。 ○教職員は、「人権感覚・人権意識の向上」の項目で、全員が肯定的に回答している。日吉学推の活動がほぼ例年通りの活動に戻り、改めて人とのつながりの大切さに気付き、人権を意識する機会が増えたからではないかと考える。		○人を思いやる、相手の立場に立って物事を見つめる等、生徒達の高評価は素晴らしいと思います。 ○●人権意識は幼児期から培っていついていので年齢に応じた指導を行う必要があると思います。	
4	体力づくり	9	A	○授業においてICTを活用し、自分たちの活動を振り返る時間の確保も行った。スポーツにおけるゲーム性や戦術を理解した上で学びを深めることができた。	A	○部活動の成績をみても高く評価されてよい。 ○体力づくりは、クラブ終了後の生徒達の帰宅を見ていると問題ないと思われます。クラブ活動以外の活動は判断できませんが、概ね学校の判断通りだと思います。 ○この学校の伝統である。体力の向上は生徒・保護者とも高評価で定着している。	・全国的に体力低下が課題となっている現状とコロナ禍の状況をしっかりと受け止め、子どもが活動できる時間の確保、授業のありかたを考え実現する。また、生涯において体を動かすことや、スポーツを楽しむことを意識づけできるようにしていきたい。 ・子どもが安心して授業に取り組めるように感染症対策をとり、また、苦手でも意欲的に参加できるよう授業の工夫改善をしていきたい。 ・体力低下や運動離れが課題となっているが、体育の授業で怪我が増えているので、安全上の細かな指導が必要である。 ・引き続き、日吉中学校の強みの一つとして、活発な活動を展開していきたい。
		10	A	○体力づくりを推進する運動実践においては、毎回の授業で、5分間走、筋力トレーニングを子どもの発達に応じて活動をしている。(腕立て・腹筋・背筋・バービー)体育の授業の中で子どもの活動時間となるべく多く確保するよう工夫している。		○運動部の活躍は大変素晴らしい。学校内外で日吉の評価が高く、学校全体にいい影響を及ぼしている。 ○日吉中学の部活動の活躍は小さな子ども達にとっては憧れであり地域にとっては誇りだと思います。	
		11	B	○運動部に多くの生徒が参加しており、放課後の時間に体を動かし体力向上を図っている。子どもの自主的な活動で位置づけられる部活動において多くの子どもが意欲的に参加している。 ●運動や集団行動が苦手である生徒が、消極的であったり、授業を見学したりすることもあるため、体を動かす楽しさや気持ちよさを味わえる工夫や、仲間と関わり合える活動を大切にしていきたい。		○●部活動の成果も含め、日常的に体力づくりに関心を持つ生徒が多いように思う。二極化につながらないように、授業でも協力的な学びを。	
5	指導改善 (組織的、計 画的)	12	B	○放課後の補充教室や定期テスト前の質問教室は実施できた。また長期休業中では、個別学習はもとより、多くを集める補充教室も感染対策を行いながらわずかだが各学年実施することはできた。3年生の夏季休業中に受験に向けた各教科の単元別夏季講座は何回か実施することができた。また個別学習も行えた。評価は生徒の評価は変わらなかったが、保護者の評価も昨年度よりも「している」と答えた評価は8ポイントも高かった。保護者にも徐々に浸透していつている。	B	○先生が生徒により添っている姿勢がうかがわれる。 ○質問教室など普通の業務だけでも忙しい先生に時間を作っていただけなのは大変ありがたいです。 ○コロナ禍もあり、より多忙化している中での指導は何かと大変かと思いますが、その中で生徒・保護者の評価が順調に伸びている事に感激します。 ○●上記項目の判断より、学校の判断通りだと思います。	・基礎学力の定着を目指した補充教室は大きく成果を上げていることが実感できているので、この取り組みは継続して行う。またテスト前には各教科で質問教室や自習教室も開設し、生徒がいつでも学習に取り組める環境を整えていきたい。 ・今年度でもできなかった公開授業月間を来年度は実施し、授業交流を教科の枠を超えて積極的に取り入れていきたい。 ・カリキュラムマネジメントを意識し、教科を横断的に指導できるよう、年間計画を考えていきたい。また各教科におけるPDCAサイクルをしっかりと確立していきたい。 ・学校のスリム化を行い、文部科学省ガイドラインである時間外労働時間45時間以内を目指すように学校として引き続き取り組んでいく。
		13	A	○多忙化解消の取り組みが昨年度よりも3ポイント上がっている。 ○「学校は、生徒の学力向上を目指し、わかりやすい授業づくりに努めている」という項目では、昨年度より保護者の評価や教職員の評価は高かったが、生徒の評価は若干下がっている。 ○昨年度から全体が足並みを揃え、一体化して教育力向上に取り組みが進められている。 ○●教職員は学校全体として一丸となり指導に当たれているが、細かい点については、年度初めにしっかりと確認しておく必要がある。 ○今年度はPS Growth PROJECTや道徳公開を利用して学校公開や授業参観などの機会を増やし、積極的に保護者に見てもらう手立てを講じる機会が昨年より持つことができた。		○●学力向上と多忙化解消を両立させることは難しい課題だと思うが、授業力向上(個別化、個性化)と他機関、地域等との連携で、ぜひ成立させてほしい。 ●学校公開は学区が広いので車で行けないのがかなり足が遠のけているように思いました。	
		14	B	○多忙化解消や教育活動の質の改善が進んできたため、評価結果も昨年度より多忙化解消に向けての評価は大きく向上した。それぞれが精選をしたり、毎日の最終退勤目標を管理職が示すことによる意識付けの中で、乗り越えることができた。 ●一昨年度に2学期に実施した全教員が授業公開を行う取り組みを何とか復活して全員で授業づくりに取り組んでいきたい。			

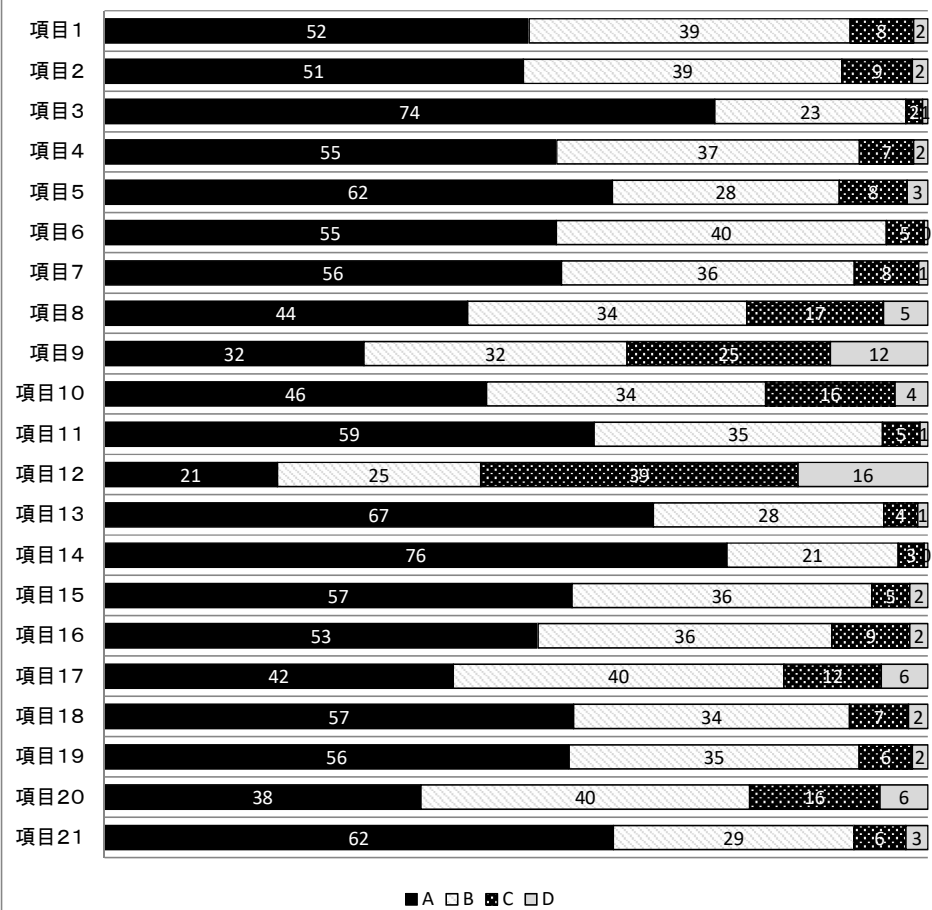
項目		観点	自己評価		学校関係者評価		今後の学校改善に向けて			
			小項目評価	中項目評価	中項目評価	意見、提言等				
6	育ちと学びを支える連携	家庭・地域との連携	15	コミュニティ・スクール事業の充実	A	○コミュニティ・スクール総会、学校運営協議会は定期的に開催できた。学校便りや生徒指導便りなどの学校の情報は積極的に発信した。 ○担任が家庭との連絡を密にとったり、必要に応じて複数の教師で家庭訪問もおこなった。また、必要と判断したときには、様々な関係機関や医療などと連携した。 ○各学区の諸ボランティアや寺子屋など行事があるとき、広報活動として出身小学校区の生徒に案内を出した。	A	○学校は保護者・地域との連携に努力しているのはよくわかります。 ○加配等をうまく生かして保護者、地域、近隣の関係機関等と積極的に連携を図り関係が深められていると思う。今後も継続、発展を。 ○地域の行事・ボランティア活動に参加される生徒がコロナ禍の中、少しずつ戻りつつあるのかなと実感します。 ○コロナ禍で「今取り組めること」を模索しながら地域の中で活躍されておられると思います。 ○ホームページでは校長先生が毎日更新され、啓発を行っておられるので学校の様子がわかります。 ○●地域の方にパトロールしていただいととてもありがたいです。今は無理だと思いますが地域の方と子どもたちが話をする機会がもっと増えればいいなと思います。 ○●コミュニティスクール活動などを通しての関係は、良好です。各関係者、地域との連携も取れており問題ない。保護者をどのように取り込めるかが課題。他の先生方も同様でしょう。 ○●コロナの影響で地域の行事も中止になり、子ども達との交流が少ないが、これから交流の機会を作っていきたい。	・コミュニティ・スクールに、一般教員の参加体制を、動員という形から構築していく必要がある。 ・コミュニティ・スクール運営協議会では消費者教育をテーマとし、生徒会執行部と地域の方の交流を図ったが、一部の生徒に限られているため、今後は多くの生徒や保護者との交流をいかに図るかを考えなくてはならない。 ・各学区のボランティア参加の広報活動は今後も継続して広く参加を呼びかける。 ・長期休暇にパトロールを行っているが、参加体制の確保が課題となってきた。 ・ホームページでの積極的な写真の掲載など、学校の様子をさらに発信できるよう考えていきたい。 ・家庭や地域の方へ、時代に合わせた情報発信の方法を模索していく必要がある。	
			16	保護者の子育てに対する積極的な支援	B	○地域で地域の子どもを守り育てるため、各学区の会議が企画されたが、実施されないものも多かった。開催された際にはできるだけ参加した。 ○定期的に生徒指導部会やいじめ防止対策委員会を開催した。また加配部会や教育相談部会を行い、情報交換や各分担の取り組みの進捗状況を確認した。 ○学校危機管理マニュアルに従い、安全点検活動を毎月実施した。	B			
			17	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	B	A				
			18	防災教育の推進と感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり	A	○各学区補導幹事及や保護司など地域の方や、関係機関、小学校の教員と会議を持ち、各校の近況報告や長期休業中の夜間パト計画を作成した。 ○坂本ふるさと大掃除や下阪本クリーン作戦に部活動が中心だったが、多くの参加が得られた。 ○メールにて各保護者に、学校からの情報を積極的に配信した。 ○避難訓練は、昨年度運営協議会で挙がった意見を踏襲し実施できた。 ○感染症対策については、学校、保護者、地域が一体となり、意識高く取り組んでいる。 ●コミュニティ・スクールについて、日頃会議に出席しない教職員への意識向上に努めていかないといけない。また、保護者にもコミュニティ・スクールの取組を周知していくことが必要だ。	A			
			19	学校公開・ホームページ・通信類による情報提供	A					
	保幼小中の連携活動	20	子どもの校種間交流や教員の出前授業	A	○夏休みの子どもサミットは開催できたが、セレモニーについては行えず残念だった。児童会と生徒会が積極的に交流できるように来年度も実施したい。 ○生徒指導主事や各学年の加配が各小学校を訪問し、6年生を中心に授業を参観したり、説明会をもつことができた。 ○学推で校種間の交流を図っている。 ○小学校に教員が出向き、積極的に出前授業を実施する予定である。 ●今年度も、保幼小中連携がコロナの影響をかなり受けている。授業参観等も計画していたが実施できないものが多くあった。	A	○いろいろな年齢の子どもが交流できる場としてとてもいいと思いました。(子どもサミット) ○上記同様に、積極的に連携、協力を図れていて心強い。今後は、授業交流の実現を。 ○コロナ禍での活動は制限を受けていますが、保幼小中の連携は取れていると思います。 ○コロナ禍であっても、子どもサミットを通じて学校の様子を意見交換ができるのは、良いことだと思います。 ○小中の連携のひとつである出前授業は進学前だけでなく年間を通してされているように思います。 ○幼稚園との連携もいつも温かく受け入れ、関わって頂きありがたく思っています。管理職以外の先生にも関わりを持って頂き関わってくださることを幼児も教師も嬉しく思っています。	・小中教員の交流は一部オンラインとなることもあったが実施できている。出前授業など今取り組んでいることを継続していきたい。 ・コロナ禍の影響を受けながらも、生徒指導主事や加配教員が各小学校を訪問し、中学校進学に向けての心構えについて説明できたので、今後も同様の取り組みを継続していきたい。 ・夏休みの日吉子どもサミットでの情報交流は、児童と生徒が交流する良い機会となったので、継続していきたい。 ・日吉子どもサミットはコロナ禍の状況に応じて、対面での開催とオンライン会議での開催を行った。今後も、児童生徒や教員の負担も考慮しながら、開催方法を検討し、実施できるように工夫していきたい。		
		21	校種間の合同研修会	A	A					
		22	校種間の授業公開、カリキュラム研究	B						
	7	組織的体制の充実	生徒指導体制の充実	23	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導	B	○普段から生徒との信頼関係を築くために生徒に積極的に声かけを行うことができた。 ○教育相談月間に放課後の時間に多くの時間を生徒と向き合える時間が確保できた。 ○小さな問題行動でも、背景に「いじめの疑い」がないか考えて判断し、対策委員会を行うことができた。 ○日常的に学級指導などで生徒指導の予防指導を行うことができた。 ○必要に応じて複数の教師が関わり、家庭訪問等を行ったり、個別の対応を行うことができた。 ○必要に応じて生徒にはスクールカウンセラーによる面談をすすめたり、医療機関や各関係機関との連携を行うことができた。 ○生徒指導部会、教育相談部会、加配部会を定期的に行い、校内での様々な課題に対して連携を行い、チームで対応することができた。 ○定期、不定期に応じて関係機関を含めたケース会議を行い、対応を協議することができた。 ●問題が表面化しにくい課題を抱えている生徒への対応をより丁寧に行う必要がある。 ●欠席がちになる生徒への対応を保護者と連携しながらこまめに行ってはいけるが、改善が見られない生徒が多い。	B	○生徒自らが行動・発信できるよう支えられている。今後も益々の時間保障を。 ○いじめを許さない・命の大切さなど生徒の高評価を見ると先生のねばり強い指導の成果の表われと感激します。 ○生徒指導については早期に情報提供をし関係機関と連携されながら取り組んでおられると思います。 ○先生方の努力が実ってきている様に思います。今後も子ども達に寄りそった指導をお願いしたい。 ○●全体として、よく取り組まれている思います。もう少し、地域を巻き込んでいくことがあったかと思ひます。	・学校、関係機関、地域が連携できるように今後も会議等を行い、引き続き交流を図る。 ・教育相談月間を学期に1度行い、生徒の情報を得ている。また、定期的な面談だけではなく、生徒の状況に合わせ、様々な教師で随時面談を行い、生徒との信頼関係作りにも努める。 ・担任を中心に家庭との連携を密にとり、必要に応じて複数の教員で懇談や家庭訪問を行う。 ・精神的なしんどさを抱える生徒は、積極的にスクールカウンセラーや医療、関係機関へとつなぎ、連携を深める。また、必要に応じてケース会議を行う。 ・不登校傾向の生徒へのアプローチを共有しながら、学校への意識を切らすことなく、継続的に関わっていく。
				24	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進	A	A		・精神的なしんどさを抱える生徒は、積極的にスクールカウンセラーや医療、関係機関へとつなぎ、連携を深める。また、必要に応じてケース会議を行う。 ・不登校傾向の生徒へのアプローチを共有しながら、学校への意識を切らすことなく、継続的に関わっていく。	
25				家庭・地域・関係機関との連携による指導	A					
特別支援教育の充実				26	個別指導計画の作成と活用	B	○特別な支援を要する生徒について、保護者の了解のもとで個別の指導計画を作成した。生活習慣や学習、対人関係について、個々の支援方法を考え、実践している。 ○生徒の状況に応じて、別室の利用や、保健室登校、関係機関への引き継ぎ等、各学年を中心に対応している。 ○昨年度に引き続き、対面での日吉ブロックのコーディネーター連絡会議を開催した。入学時の学校生活がスムーズにいくように、生徒の情報交換をしている。卒業後、成人後の一生も見え据えた支援体制や方法を知る学習会を行っている。 ○開かれた支援学級となるよう、学年の教師や加配教員を中心に、支援学級の授業サポートや見回り等を行っている。 ○支援学級の学習や生活単元の成果物を学校全体に発信することで、通常学級の生徒と支援学級の生徒をつなぐ一助となっている。 ●支援を要する生徒の数が多く、物理的にも人員的にも、個別の対応に限界が来ることが予想される。専門家のコンサルテーションを活用し、保護者とも意見を擦り合わせながら、効果的な支援を考えていく必要がある。 ●個別の指導計画の活用が、担任止まりになることが多く、各教科担当が周知しにくい状況がある。今年度共有方法を模索してきたが、来年度さらに改善していく必要がある。 ●特別支援学級の入・退級、中学3年生時の進路選択について、早い時期からの教育相談が必要である。本人や保護者の思いに寄り添いながらも、高校生活や成人後の社会生活を見据えた進路指導が欠かせない。学力だけではなく、自立して生きていく力を養う教育活動を行っていきたい。 ●不適應の背景には、発達の特性があることが多い。個別の指導計画がない生徒についても、一人一人丁寧に見取り、個々に合った適切な対応が求められる。	B	○先生方が子どもごとに支援や対応をさせていただいていると思いますが、左記にあるように対応に限界があると思いますし、対応や支援のいらない子ども達の事も当然見ていただかないといけないので、国、県、市との連携していただけたらなと思います。先生の負担が増えすぎないか心配になります。 ○小中高の連携を深め個々に応じた対応ができているように感じる。今後はよりいっそうインクルーシブ教育の視点を持ち、通常学級での情報共有、交流を深めてほしい。 ○●特別支援教育は、判断できませんが学校の判断通りであると思ひます。 ○●先生方・関係機関のより一層の情報の共有を期待します。 ○●支援を必要とする生徒は幼少期からの連携が必要なので丁寧引継ぎをしていかなければならないと思っています。可能な限り進路についての情報が頂けるとを幼児期からの見通しにつながっていくと思ひます。	・個別の指導計画を活用する取り組みを実践していい。具体的には、以下の4点に力点を置く。 ①様々な支援の手立てを全教員が知れるように、研修をする。 ②本人の思いを汲み取りながら、具体的な目標を決める。 ③本人と保護者で結果を共有し、成長に応じて目標を再設定していく。 ④個別の指導計画の内容を、全教員が効果的に共有できる手法を確立する。 ・個別の指導計画の有無に関わらず、学校全体で特別支援教育の視点に立った授業改善を行う。 ・特別支援学級を担任任せにせず、学校として支援する体制を継続していく。 ・必要に応じて関係機関や医療につなぎ、本人や保護者が相談できる場所を増やすとともに、適切な対応ができるよう、連携をする。 ・ケース会議や小学校との引き継ぎ等を密に行い、情報を共有する。 ・支援を要する生徒や保護者が、早期から進路についての見直しを持てるよう、教育相談を利用し、情報を発信していく。
				27	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	A	A			
				28	関係機関と連携した相談体制の充実	A				
8		学校満足度	29	生徒の学校満足度	A	A	○生徒アンケートでは「学校では毎日楽しく生活している」という問いに、全体の91%が楽しく過ごせていると肯定的に回答している。保護者アンケートでは「お子さんは学校生活を楽しく送っている」という問いに対して、85%の方が楽しく送っていると回答いただいた。一昨年、昨年と同様に生徒の満足度は9割を超え、ほとんどの生徒が前向きな学校生活を送ることができている。ただ、学年が上がるほど満足度は向上する傾向にあるが、3年生はあてはまらなと答えた生徒は0人であったが2年生と1年生にはあてはまらなと回答した生徒がいることにも配慮が必要である。	A	○先生方が努力している結果がここにあらわれている。 ○生徒は、学校に対して良い評価を下していると思われす。良くないと思えば、授業に出なく町にいますので、今のところは良い評価です。 ○「学校生活が楽しい」学力・体力で、先生方の指導の成果を感じています。今後も明るく・楽しく・元気な学校を維持してください。 ○生徒の満足度が高く、学校生活の充実ぶりが伺え、先生方の努力が報われている様で感謝 ○生徒も保護者も高く評価していることは素晴らしい。 ●小学校からのゆるやかでなめらかなつなぎの必要性を感じる。	・3年連続で90%以上の生徒が学校が楽しいと答えており、学校満足度は高い。また、生活のきまりを守るなどの規範意識も高く、多くの生徒は、落ち着いて前向きな学校生活を送っている。今後は、さらに学力向上に向け、授業改善を行うとともに学力定着のために授業と関連する効果的な家庭学習の充実に向けて取り組んでいきたい。 ・満足度の低い生徒がいることを心にとめ、すべての生徒をささえてこそその日吉中であるという意識できめ細かい指導に取り組んでいく。

評定(達成度)の目安		
達成度	指 標	
A	満足である	
B	からかいという満足である	
C	満足がある	

学校評価(生徒)令和4年

1. 自分たちが互いに支え合おうとする学級・学年集団になるよう努力している。
2. 授業の中でグループ活動やタブレット端末を通して、互いに思いや考えを伝え合う努力をしている。
3. 道徳の授業や学校生活の様々な場で、生命を尊重し、いじめを許さないためにしっかりと考えることができた。
4. 道徳の授業では、資料をもとに自分の思いを互いに交流することができた。
5. 部活動や体育の授業や体育大会などの行事を通じて体力がついたと実感できる。
6. 学校では、先生は学力向上を目指してわかりやすい授業づくりに努めている。
7. 学校では、学習面でわからないところを尋ねたり、補充したりする場が用意されている。
8. 先生たちに気軽に話しかけたり、悩み事などを相談することができる。
9. 地域探訪、地域行事、福祉体験などで地域の人たちと交流できた。(答えられる人のみ)
10. 学校からのお便り(切磋琢磨、学年通信、保健室だよりなど)にしっかり目を通して、保護者に渡している。
11. 学校では、安心・安全な学校づくりのために、防災の学習や感染症に関する対策を行っている。
12. 地域の行事やボランティア活動に積極的に参加している。
13. 学校は、日頃からいじめや暴力行為について絶対に許さないという姿勢で指導している。
14. 服装や持ち物など学校生活のきまりを守っている。
15. 先生は自分のことを理解しようとしてくれる。
16. 学校は、学習面や生活面で困ったことがあるとき、相談にのってくれる。
17. 学校では必要に応じて、担任以外の先生やスクールカウンセラーと相談できたり、他の機関(相談センターや病院など)を紹介したりしてくれる。
18. 学校でのいろいろな学習や活動、行事などを通して自分らしさや他の人のよさを発見することができた。
19. この学校は地域に支えられている学校であると感じている。
20. 自分にはよいところがあると思う。
21. 学校では毎日楽しく生活している。

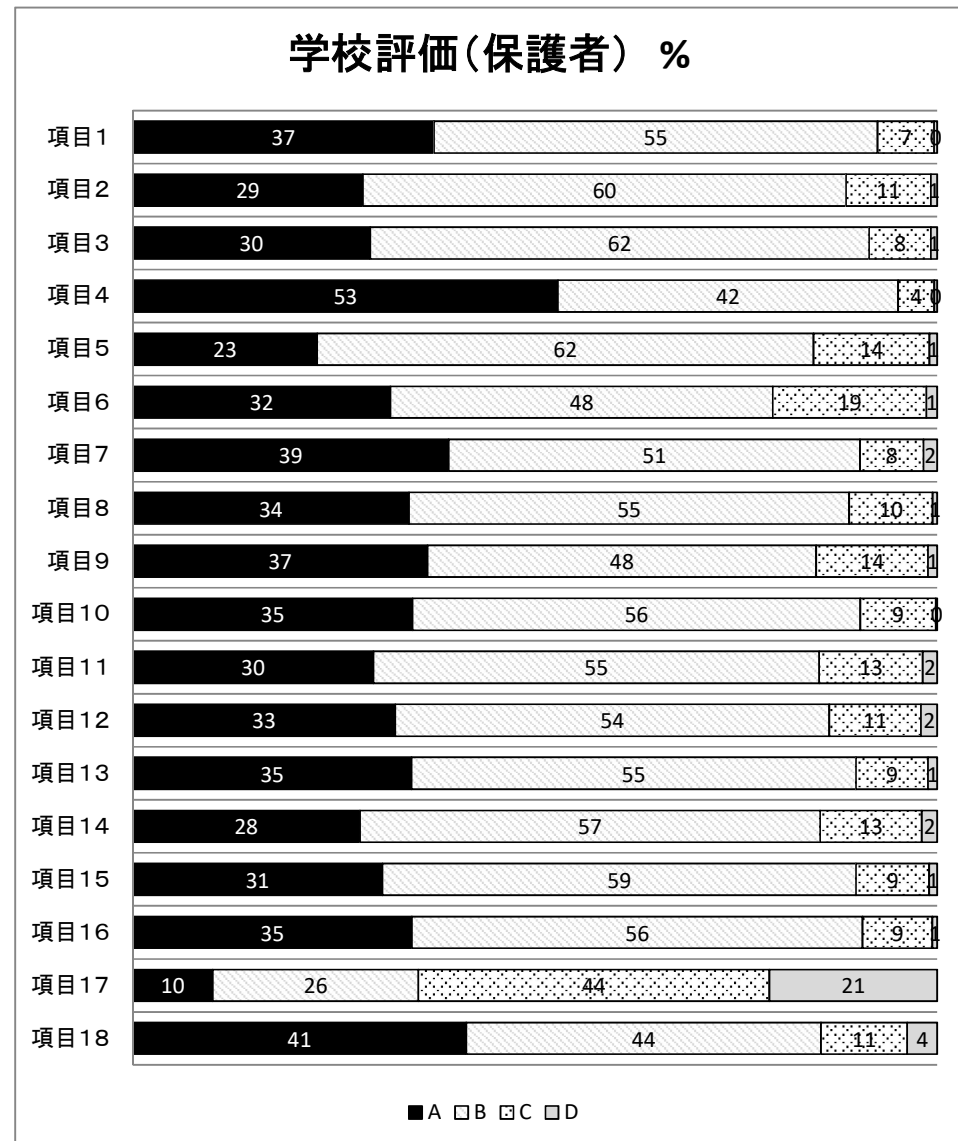
学校評価(1～3年生) %



A:している B:どちらかといえばしている C:あまりしていない D:まったくしていない

学校評価(保護者)令和4年

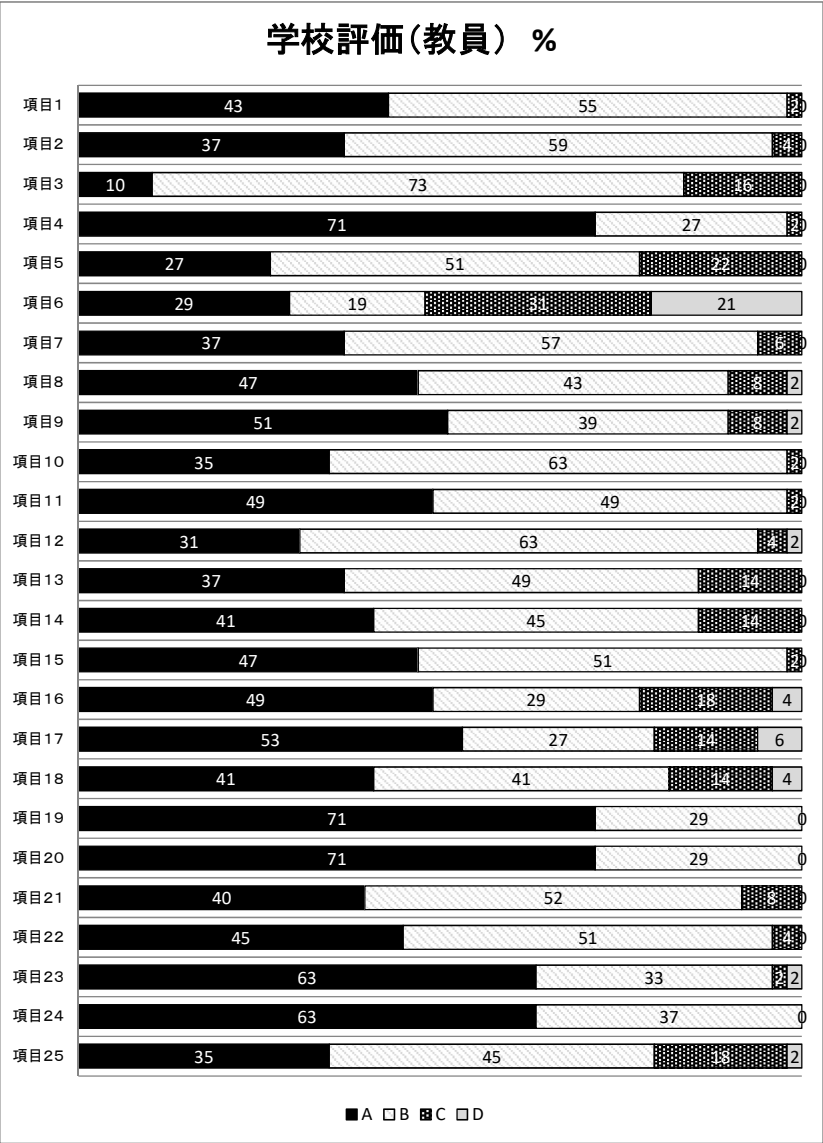
1. 学校は、子どもたちが互いに支え合おうとする学級・学年集団づくりに取り組んでいる。
2. 学校は、一斉指導の形式だけでなく、生徒どうしが学び合えるグループ学習等の工夫を行っている。
3. 学校は、道徳の時間をはじめ学校生活の様々な場で、道徳心の向上に努めている。
4. 学校は、授業や体育大会などの行事、部活動を通じて体力づくりを推進する取組を行っている。
5. 学校は、生徒の学力向上を目指し、ICTを積極的に活用し、わかりやすい授業づくりに努めている。
6. 学校は、授業でわからないところを放課後や長期休業中の質問教室を通して、学力補充に努めている。
7. 学校は、お子さんのことで心配事があるとき、相談にのり、支援しようとしている。
8. 学校は、保護者・地域との交流や参観、懇談会、研修会を実施し、地域人材の活用にも努めている。
9. 学校の様子や進路など適切な情報提供が学校から出されている。
10. 学校は、防災教育や感染症対策を推進するなど、安心・安全な学校づくりにつとめている。
11. 学校は、いじめや暴力行為、休みがちなど子ども等の課題に対して早期に対応し、日頃から予防に向けて取り組んでいる。
12. 学校は、子どもの気になる行動や様子が見られたとき、担任をはじめとして複数で指導にあたり、組織的に対応している。
13. 学校の教員は、子どものことを理解しようと努めている。
14. 学校は、子どもの学習面や行動面で心配なとき、福祉や医療、相談機関を紹介してくれたり連携を取ってくれる。
15. 学校は、コミュニティ・スクール事業を受けて7年目を迎えており、地域とともにある学校づくりを推進している。
16. 学校での車椅子体験、国際理解学習、生き方講話などは子どもの人権意識の向上につながっている。
17. お子さんは地域の行事やボランティア活動に積極的に参加している。
18. お子さんは学校生活を楽しく送っている。



A:している B:どちらかといえばしている C:あまりしていない D:まったくしていない

学校評価(教師)令和4年

1. 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践
2. 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善 (ICTの活用含む)
3. 主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会
4. 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施
5. 道徳の授業研究や資料の開発・整備・交流
6. 保護者等への道徳の授業公開
7. たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善
8. 体力づくりを推進する運動実践
9. 体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成
10. 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善
11. 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上
12. 校務の効率化など多忙化解消の取組と教育活動の質の改善
13. 保護者の子育てに対する積極的な支援
14. 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用
15. 防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり
16. 子どもの校種間交流や教員の出前授業
17. 校種間の合同研修会
18. 校種間の授業公開、カリキュラム研究
19. いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導
20. 生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進
21. 個別指導計画の作成と活用
22. 組織的・計画的な特別支援教育体制の確立
23. 関係機関と連携した相談体制の充実
24. 人権感覚・人権意識の向上
25. コミュニティ・スクール事業について本校の取り組みの把握



A:している B:どちらかといえばしている C:あまりしていない D:まったくしていない